



有松まちづくりの会役員会 (4月24日)

竹田会長から「有松東海道の無電柱化、重伝建選定、日本遺産認定に大いに貢献してきた有松まちづくりの会として、新年度も有松のまちづくり活動について、皆で考えながら、協力して取り組んでいきましょう」との話がありました。続いて5月18日(木)の総会に向けて、役員案、令和4年度の報告事項及び収支決算、令和5年度の事業計画及び収支予算案についての検討や確認を行いました。

天満社・3町山車庫 虫干し 行われる (4月16日)

昨年と異なり、今年はスッキリとした晴天の下で実施されました。9時近くになると天満社や3町の山車庫には楯方を中心に多くの人が集まってきました。どの顔にも「今年こそ祭りをやるぞ」の意気込みが表れています。「これ以上山車を曳くのを中断したら、祭りがやれなくなってしまう」危機感の裏返しでもあるようです。

天満社の上の広場①では、幟に風を通し提灯にナフタリンを入れていました。西の山車庫前②では、骨組みだけの山車が曳き出されていました。中町③では提灯を吊り下げて、東町④では飾り付けを行うとのこと。



①天満社上の広場での様子



西町年行司前



②西町山車庫前



③中町の提灯干し



④東町山車庫前

絞り鯉のぼり 有松を泳ぐ (4月19)

4回目を迎える鯉のぼり展示。東海道を川に見立て、鯉がそこを泳ぐ。設置作業に同行させていただいた。10名程の参加者が、一心に鯉のぼりを格子にしばりつけている。指先が動かしにくい。1軒に親子3匹設置、有松東海道の10か所程。5月7日までの展示だ。早くも写真を撮る人が見られる・・・



"みどりくフェア"で有松紹介 (4月15日～23日) 於:イオンモール大高

イオンモール大高で、15周年祭「みどりくフェア」が行われました。有松あないびとの会も参加して、会場のブルーコートで、日本遺産のまち 有松 の魅力を浮世絵やパンフレット等で紹介。絞りまつりの案内もされていました。

同じコートには、緑区内のガイドボランティア団体等による"体験"コーナーも用意されており、人出が途切れることはありません。昔遊び(けん玉・こまづくり)や射的、中でも人気を集めていたのはペーパークラフトによる兜造りです(写真右上)。取材した16日には70人以上が制作とのこと。

体験活動を通して歴史に興味を持っていたかどうかという催しに脱帽です。



有松あないびとの会の展示コーナー



かぶと

兜完成!



ブルーコートでの様子

有松茶会 (3月25日) 主催:NPO法人コンソーシアム有松

桶狭間に近い有松の地で織田有楽流宗家のお茶を頂きながらお話を聞く催しが、竹田家茶室で行われた。

● 茶席(於:栽松庵さいしょうあん)

竹田家の敷地内にある「栽松庵」は、14代将軍徳川家茂が2度も寄られたと伝わる茶室。座敷の南側に位置し、①路地庭を通った先にある。②躍り口(にじりぐち)はなく貴人口(きにんぐち)で、内部は三畳敷き。珍しい間取り。この由緒ある茶室で、5人ずつ計8回の茶席が設けられた。

③座敷の浪打ガラスを通して眺める庭園は四季折々の植栽を楽しめるようになっていた。④座敷には、有松商家数件の茶室がパネルで紹介されていた。書院から栽松庵を眺める⇒

■ お話(於:書院)

有楽流宗家 織田宗裕先生のお話を聞く。

お話は30分程。会場の書院では30名程の方が和やかな雰囲気の中で聴講していた。

信長と13歳離れた有楽斎との関りについて、幼少期からの様子を話された。「(本能寺の変後)上手く生きてきたようだ」「有楽斎のお茶は発想が自由である。武家の茶道を知って欲しい」とのことであった。

織田信長の肖像画も展示されていた。生前の面影を最も有しているとされる。大徳寺蔵、狩野永徳筆。

書院でお話を聞く⇒



足助を訪ねて

有松あないびとの会 伊藤総俊

2年前まで数回に渡り「有松スケッチ」を掲載された湯地昭夫氏より、足助の絵を提供していただいた。

足助といえば第1回全国町並みゼミの共同開催地。町並み保存活動の今後を考えるこの時期、足助の取り組みは参考になる。第40回大会の折り、足助の町並みを案内していただいた報告文を合わせて掲載する。

《足助の町並み》

全国から集まった参加者は20名ほど。紅葉真っ盛りの香嵐溪を横目に、足助観光協会の田口会長のご案内で保存地区を約1時間に渡り散策をした。古民家に造詣の深い方が多く、色々教えられた。

出発は豊田市役所足助支所。その隣に建つ足助八幡社や足助神社を前に、足助次郎重範の話をつかう。巴川を渡り保存地区に入る。電柱電線が地中化されていた。ほどなく玉田屋という江戸末期の雰囲気を残す旅館が見える。現在も営業中というから驚き

だ。第1回ゼミの時、有松に宿泊施設がないため、参加者の多くは足助に泊まったという。確かに、今でも保存地区内に民宿が何件か見られる。次に「塩の道づれ家」という町並み活性化施設に寄る。旧医院を改造したもので、売店やそば打ちを見学させていただいた。皆で造った施設とのこと。道標を右手に見ながら、伊那街道を進む。当時より地面は4m程高くなっているそう。続いて旧警察署が見える。屋根の避雷針が印象的だ。

足助川を渡り、街道を更に進む。遠くの山に、5億円をかけて造られたという足助城が見える。街道沿いに江戸末期から明治にかけての建物があちこちに見られる。瓦葺、漆喰塗の2階建ての町屋である。有松と比べると、2階の建ちが高いのはどうしてなのか。やがて、有名であるマンリン小路に至る。漆喰塗籠の壁や下見板張りに歴史を感じる。名前の由来は、小路入口左側のマンリン書店による。落ち着いた雰囲気のお店だ。

更に町並み見学が続く。有松は多くの建物が平入だが、足助は妻入が混在している。特に、田口家手前の連続した妻入家屋の眺めは圧巻である。

《田口家》

散策の最後は田口家。ご案内いただいた田口会長の家だ。40年前、第1回の会場になったところである。田口会長のお父君が町並み保存活動をされていたとのこと。明治中期まで製茶業をされ、のちガソリンスタンドを経営された。今でも床下にガソリンタンクが残されている。足助側のマンリン書店に寄る。落ち着いた雰囲気のお店だ。交通の要衝、集散場であったことの証といえる。大正時代にはオート三輪トラックが街道を行き来していたとのこと。

足助の商家は間口が狭く奥行きが深い。田口家も奥行き70mで、主屋の裏に蔵など4つの建物がある。そこで製茶が行われていた。（「第40回全国町並みゼミ名古屋有松大会 報告書」より）



足助 湯地昭夫

「文化薫る緑区めぐり」発行（4月）

この春、緑区観光推進協議会により「文化薫る緑区めぐり」が発行されました。区内各地域の寺社などが紹介されています。有松エリアには祇園寺や有松天満社の他、東海道沿いにある七つの歌碑が載せてあります。是非入手していただき、区内各地域を廻っていただけると嬉しいです。改訂された「緑区あちこちマップ」もお供にどうぞ。

なお、七つの歌碑は有松かわら版「有松文芸のこみち」に詳しい解説があります。

(2021年10月号～2022年6月号)



有松
ARIMATSU

10 「上代より千世の契りや 有松の千しほ八千しほくくり染けむ」 加茂 季郎
江戸後期に竹田九郎家に立ち寄ったときに贈ったといわれている。歌碑石は御茶屋石という幸運をもたらすパワーストーン。

11 「そめそめ あけも美とりも 有松の里の榮は 色にても知れ」 糟谷 磯丸
生誕祭をしながら数万部の歌を作ったといわれている。磯丸の歌は「まじない歌」といわれ、長寿の呪いを代弁し、人気があった。

12 「あり松の 柳しほりの 見世にこそ しはしと人の 立ちとまりけれ」 梅屋 鶴齋
鶴齋の狂歌で、若いころから狂歌を得意としていた。平成20年(2008年)有松町400年を前に、建立。

13 祇園寺
宝暦5年(1755年)に徳川の藩政より建立。有松の人々の墓所である。有松絞りの発展に寄与した初代尾張藩主徳川義典公や、絞りの発祥地竹田九郎、中興の祖船木金成など功労者を祀っている。絞りを染めた時の夢に由来する三十三観音堂の秘宝もある。

14 有松天満社(末)・・・イベント場のみ
江戸時代の中頃から有松の人々の氏神で、元は稲佐の境内に天神様を勧請し、寛政10年(1798年)頃、今の境内に移され文政7年(1824年)頃に現在の社殿(八幡造り)が当時の絞りを染めた時の夢により造られた。町の人々による絞りの奉納祭は恒例。

D カフェ&バル 庄九郎
☎052-627-2055
営業11:00～22:00

E 有松・鳴海校舎
☎052-621-0111
営業 9:30～17:00
臨時休業あり

江戸時代より、多くの歌人が絞りで名高い有松を訪れて歌を残している。

6 「たちならぶ 花のにしきの家ごとに かけ渡したる くくり染かな」 離屋 鈴木 腹
作者である鈴木 腹は、本陣吉原の国学に精通した。原稿は国学書らしく高貴な書体で書かれている。 ※歌碑石本文と異なります。

7 「有松や 家の中なる ふちのは那」 淡々
作者である松本淡々は、20歳のころ、江戸に出て芭蕉から月日の句を受け、京都で門戸を開き、かなりの名声を得た。俳諧の習性も保れていたが、高貴な歌で自給の富を築いた貴族の俳諧師といわれる。

8 「完結小市 枕端低 聞説英雄 此折席 碧血爛斑 千載在 綱文染上 女兒衣 過有松邸 氏民粥飯 縫衣業村 東即桶狭」 山陽 外史
文化10年(1813年)桶狭山が井所屋に迫ることを描かれ、漂泊したときの詩歌。桶狭山合戦の話を聞き、町の風景に心打たれて前に書き記した。

9 立ちつづく 常盤のかげを 契りにて 千歳もすまん 有松の里」 冷泉 為章 脚
「松並崎(東海道)のその松の下で誓った。未永く果える有松村であれ」と有松開拓の誓いを記している。常盤(常盤木の松)と有松(松)、常盤(永久不変)と千歳(永く続く)が掛けられているおめでたい歌。

↑ (上)文化薫る緑区めぐり (下) 緑区あちこちマップ

話題 いま兜(かぶと)が熱い

大谷翔平の兜姿が話題になっている。実はこの兜、有松にもご縁がある。竹田家茶室に徳川14代将軍家茂が2度訪れたことはよく知られている。この家茂がフランス、当時のナポレオン三世に贈っている。

当時日本は、アジア諸国を植民地化しようとするヨーロッパ列強の進出に危機感を抱いていた。そんな中、異国の武具を好む皇帝に甲冑(かっちゅう)が贈られ「美術品外交」が行われた。しかし、皇帝失脚後、甲冑はフォンテンブロー城に放置された。

先日ニュースを見ていたら、ナポレオン三世没後150年イベントで5か月をかけ修復され、披露されたことが報道されていた。

兜人気の中、家茂の名が伝えられるのも、有松には誇らしい。

催事・行事の予定

～7日(日) 絞り鯉のぼり展示 有松東海道沿い

5月5日(金) NPO法人 桶狭間古戦場保存会総会 桶狭間公民館

5月15日(月) 18:00 有松町並み相談会 コミセン

5月18日(木) 13:30 有松まちづくりの会総会 絞会館

5月22日(月) 18:00 有松まちづくりの会役員会 コミセン

5月28日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

9:00 町内一斉町美活動

発行者 竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤 明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

